

高津区おはなしアーカイブ

●石塚 兼義 (いしづか かねよし) さん

昭和12年生まれ 81歳
川崎市高津区久地在住



◆ご家族のお話しを

生まれも育ちもここ久地です。

兄弟は5人なのですが、私以外は全員女です。上に姉が2人、下に妹が2人の真ん中です。一番上の姉が3歳上で、一番下の妹が10歳下です。昔はよく、ゴザを敷いて、おままごとに付き合わされましたよ。女の中で育っているから優しい性格とも言われました(笑)。

当時は、祖父母、両親との9大家族でした。祖父は明治13年生まれで小さい時に石塚家に養子に來たそうです。年をとると、家の門の前にある石に座って、行き交う人と1日中、話をしていたそうです。昔から

の久地や溝口周辺の住所の地番をよく知っていたので、道がわからないと「あのおじいさんならわかる」と聞きにくるくらい有名だったそうです。

私のお袋は、稲田堤の桜並木のそばの菅の出身です。お袋の兄貴が二ヶ領用水の水門のところで、水道管理の仕事をしていて、縁あって親父と結婚しました。

お袋は面白い人で、ここから300メートル先に高津区と多摩区の境に作った水害対策の土手があり、そこで狸が花嫁に化けて、提灯行列があったらしいなんてよく言っていましたよ。まあ、昔話の「狸の嫁入り」ですね。また、ハイカラで、当時はめずらしいゲートボールをしていて、友だちも多かったです。そして、時代の先を行く人で、子どもたちの健康のために、早くから保険制度のことを気にかけていました。会社員は社会保険があったけど、農協は遅かったのです。

家族の食卓は、正座で早メシですよ。夏は蚊も来るから団欒なんてあったもんでなく、「さっさと早く食ってけ！」てな感じですよ。

食事は、麦7米3の割合のご飯に味噌汁で、必ずあるのはおしんこです。沢庵、白菜、からし菜、高菜など時期の野菜を使いました。お袋の糠みそが美味くてね、その日に漬けたものをその日に食べていましたっけ。魚は自転車で行商人が新鮮なものを売りに来ていました。川魚は、川で捕って

きたらお袋が匂い消しに醤油で甘露煮のように作ってくれました。私はこれが好きでねえ、今でも正月には、千葉の成田山に行き帰りに印旛沼の佃煮を買ってくるのですよ。

◆小学校の思い出は

高津小学校出身です。当時はこのへんにはこの小学校しかなかったのです。

久地、溝口、久本、坂戸、北見方などみんなが友だちでした。男女共学で1クラス50人はいたかなあ。制服はなくて自由でしたが、私は制服のような詰襟を着ていました。

戦時中は集団登校で、上級生が門番として棒を持って校門に立っていました。

1番の思い出は、やはり弁当ですね。戦後の食糧難でしたから、日の丸弁当でも嬉しかったですね。ご飯はやはり、麦7米3の割合です。終戦後の小学4年のときに新聞紙の上に、脱脂粉乳を分けてもらい舐めました。マカロニやコッペパンなども出てきました。

自営農家が多かったから、農繁期は親の承諾を得た子だけは、昼から早引きができました。私は帰りませんでした。

祭りのときは、地域によって行われる日が違うので、学校側から早引きが許されてね、これは嬉しかったですよ。子ども神輿の担ぎ手は5、6年、大太鼓を引くのは1、2年で、全員で50人くらいは必要だった

もの。屋台は無かったけど、芝居小屋はあってお笑いや時代劇をやっていたねえ。

母親が親戚の子どもたちを招いて必ず赤飯や煮しめを作ってくれました。

◆中学、高校時代は

高津中学に進学しました。結局、小学校の友だちとそのまま一緒です。制服は無かったけど、やはり自分は詰襟のような服を着て登校していました。

兵舎の跡地に建ったらしく、橘高校と隣同士で購買部もできました。弁当の代わりにパンを買うことができるようになりました。今で言う「甘食」かな。けっこう大きくて、コッペパンと同じくらいの大きさと1個が15円くらいでした。

私は、クラスで3番目に身長が高く、駅伝部に入部しました。5キロ走で、よく洗足学園から溝の口駅まで走りました。川崎駅から登戸間の県大会にも出場しました。あまり順位は良くなかったけど(笑)。

上の姉も足が速く、運動会でもいつも1等賞で、短距離の代表選手でした。下の妹たちは、どちらかというと裁縫のようなことをしていましたね。

高校は東京の尾山台にあった私立の武蔵工大附属高校に通いました。友だちは全く変わりました。中学時代にすでに英語は勉強していましたが、全然レベルが違いました。

◆円筒分水について

小学校の頃からの遊びはずっと円筒分水で魚捕りや泳ぐことでした。円筒分水は、底が空いているので中央部分で潜ると円の外側に出てくるのですよ。一度潜って見えなくなると、「あれっ、どこ行っちゃった？」なんてね(笑)。泳ぐときは、女子は海水着だったし、男子は「赤フンだぞ！」なんて威張っていました。



昔は熟れた桃が川から流れてきて、それをそこで食べると実に美味しかったです。当時の桃は触ると指の跡が付くぐらい瑞々しく最高の品でした。

円筒分水では、大きい子ほどケガをします。二ヶ領用水の水門と円筒分水の部分をコンクリートで固めて、淵を針金で留めているのですがその針金がむき出しなのです。その針金の先が、裸の腹にでも当たると皮膚が深く切れて、出血がひどくて何回かリヤカーを使って急いで病院ですよ。

まあ、円筒分水で溺れるということは無かったね。

当時は高津小学校の裏に、機械船が砂利を掘っていた場所がありました。そこは綺麗な湧き水が出るのですが、1メートル下に潜ると水が冷たくてねえ、そこに飛び込んで心臓麻痺で亡くなった子がいました。

その砂利は東京オリンピックの建設用材として使われました。もう50年前の話ですね。

魚捕りは、竹やぶから3メートルくらいの竹を取って来て三角にして枠を作り、多摩川の漁師をしている叔父から要らなくなった網をもらい、その枠に取り付けて「ブツテ」というすくい網を作りました。これを持って夕方、円筒分水に行って水面に上がってくる川エビや小魚をすくうと、1升くらい捕れました。お袋が醤油で煮たり、天ぷらにしてくれると美味かったなあ。

この円筒分水は平成10年(1998年)に、国の有形文化財に登録されました。私の家の前の信号機のプレートにも、「円筒分水前」と表示されました。それからは自宅の場所が簡単に説明できるようになりました(笑)。散歩がてら、訪れる人も多くなりました。



◆お地蔵さんとともに

私は円筒分水と同じくらい、小さなときから親しんできたものがあります。それはうちが管理している家の前の「子育て地蔵」です。このお地蔵さんは、今までに何メートルかですが、堤防の拡幅工事で3ヶ所、移動しています。元の場所に戻るはずが、役所の計画が白紙に戻り、結局現在の場所に落ち着いています。

家の前の道で、大きなトラックがUターンのときに曲がりきれなくて、何度ブロック塀を壊されたかわかりませんし、オートバイの接触事故も多いのですが、死亡事故はありません。これもお地蔵さんのおかげかなと思っています。

戦時中は乞食がお地蔵さんを倒して、夜にその祠で寝ていたこともありました。倒されたときの衝撃で、地蔵さんの首が折れ

て復元が難しかったです。見かねた親父が、セメントで直したけれど、どうにもかっこ悪いというので、その後、業者が修復してくれました。今では、このお地蔵さんの場所は西高津中学の通学路になっていますが、合格祈願の噂が流れたのか、時々生徒が頭を下げて祈っている姿を見ます(笑)。

四季折々に、そっとお餅などが供えられています。誰が置いたかは、なんとなくわかりますね。



◆家業も変わり

うちは自営農家で、畑と田んぼで1丁くらいありました。この辺りは、多摩川梨や桃で有名で、うちも季節によって野菜などと一緒で作っていました。戦時中は、「畑を伐採して、穀物を作れ」と国から言われていましたが、野菜は年に何回も収穫できるけど、米は1年に1回ですから、野菜中心でした。

野菜作りはとにかく家族総出で忙しくてね、良質なものを作らないと信用度が落ちますから。小学6年の頃には午前3時に起きてリヤカーで世田谷の市場に出荷しました。急な坂はお袋に押ししてもらって運びました。市場から戻ってから学校に登校しました。

石塚家を作った野菜の表示は、三角の中に石塚の「石」を入れて、「山石」と名付けました。おかげさまで、「山石」の野菜は品質が良いと評判だったのですよ。当時は運送屋も少なかったので昭和30年頃には車の免許を取り、自動車で運びました。

私が中学の後半、親父の身体の調子が悪くなり、畑は縮小して養鶏を始めました。300羽のヒヨコを冬は湯たんぽ式に暖めて育てるのです。

エサは、魚屋と契約して魚のアラを買取り、アラを煮たり野菜クズと混ぜてあげました。また、二ヶ領用水から分かれた川でザリガニがバケツいっぱい捕れたので、それを茹でて美味しく食べたあとに、殻をエサに混ぜると卵の黄身が真っ黄色になりました。高価な卵の出来上がりです。

昼間はパートのおばさんを2人雇い、東京から卵業者が取りに来ました。

◆戦争中の思い出

津田山に高射砲を3本持っている62部隊が留まっていたせいでしょうか、相模湾の方から来た米軍機の不発弾がすぐそばの

家の十畳間に落ちて大変でした。被害はあまりなかったのですが、驚きました。

隣の本家に遊びに行ったときには、米軍のロッキード社の飛行機の機関銃の音が聞こえました。

夜は電球に黒い布を被せたりしました。

防空壕は久地神社のところですよ。まず、岩盤を1本筋に掘って、そこから枝状に何本か伸ばして掘り、各家で分かれて避難しました。うちは、避難がしやすいよう、家から2分のところに作りました。戦後は土砂が風化して、乞食が住みついたりもしました。

うちの前の道が県道だったので、早くから街灯が点きましたが、戦時中は、街灯もはずせと言われました。

父は戦争には行きませんでしたよ、警防団に入り、戦時中はサイレンが鳴ると着替えて詰め所に向かいました。

戦後になると、近くの酒屋というか雑貨屋に行けば何でも揃うようになりました。祭りの草履まで売っていましたよ。あとは溝の口駅前の闇市のマーケットに行けば、色々な物が手に入りました。女性の着物は、高津小学校のそばに、呉服屋がありましたから、そこであつらえることができました。

◆今、振り返ってみて

親父はずっと継いでほしいと思っていた農家でしょうが、平成に入って閉めました。駐車場に整備し残った土地で自家菜園をし

ています。トマト、ナス、キュウリなど夏野菜を作っているけど、やはり昔からトマトが一番難しいですね。

津田山から久地までの風景はあまり変わっていませんでしたが、ここに大きなマンションが建って、ビル風がすごくなりましたねえ。植木の落ち葉や住人のタバコの吸殻まで、飛んでくるようになりましたよ。

川もコンクリートでフタをして暗渠にしてしまったら、なかなか昔の風景が思い出せなくてね……。でも、うちの屋敷の下は川が流れるように建てたので、庭の水路に鯉が10匹ほど泳いでいるのが見えますよ。

平成27年に36年間の消防団活動で、瑞光章の勲章をいただきました。家族の助けがあったからこそ、夜も寝ずに連絡係を務めた妻にも感謝状をいただきました。



(平成30年9月27日取材)